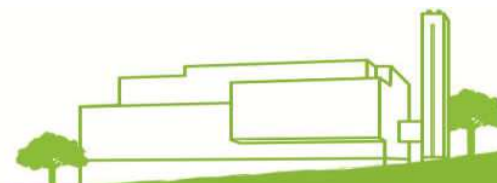


資料4

佐賀市におけるプラスチック分別 リサイクルについて（中間報告）

環境審議会
（令和5年7月31日）

佐賀市環境部循環型社会推進課



I 前回の中間報告内容(まとめ)

- 「ステーション収集」と「拠点回収」の両方について、横並びで検討を進めていきたい。
- 他自治体の事例について、更なる情報収集と分析を進める。

〔収集方法別の特徴と課題〕

	ステーション収集	拠点回収
分別排出	・ <u>近くのステーションに出せる</u> ・ <u>有料指定袋が必要</u>	・ <u>自分の都合で出せる</u> ・ <u>指定袋が不要</u>（無料回収）
収集運搬	・ <u>収集量が多い</u> ・ <u>収集運搬費用の増加</u>	・ <u>収集量は少ない</u> ・ <u>運搬費用の縮減</u>
選別保管	・ 異物選別が必要 ・ <u>選別保管施設の確保</u>が必要	・ <u>きれいなプラの回収が可能</u> ・ <u>選別作業が不要</u>
再商品化	・ <u>固形燃料化などのリサイクル</u>が中心	・ <u>質の高いリサイクルが可能</u>

2 拠点回収の先進事例（栃木県那須塩原市）

(1) プラスチックごみ処理の現状

〔製品プラスチック〕

- ・ 可燃ごみとして焼却処理、熱回収による発電

〔容器包装プラスチック〕

- ・ 白色トレイ、白色発泡スチロールについては資源物として回収・再資源化（ステーション収集と拠点回収の併用）
- ・ 上記以外は可燃ごみとして焼却処理、熱回収による発電

(2) 那須塩原市が目指すプラスチックリサイクル

- ・ きれいな状態のものを集め、確実なマテリアルリサイクルを実施
- ・ 環境負荷が低く、コストをかけないリサイクル（持続可能性）



➤ 脱炭素社会への貢献、海洋ごみ問題の解決、リサイクル率向上

(3) モデル実証の概要

- ・ 実証期間: 約1ヶ月間 (R4.10.25~11.30)
- ・ 回収場所: 市立公民館1ヶ所 (対象世帯数: 6,047世帯)
- ・ 利用時間: 午前8時30分~午後10時
- ・ 回収対象のプラスチック
〔製品プラスチック〕



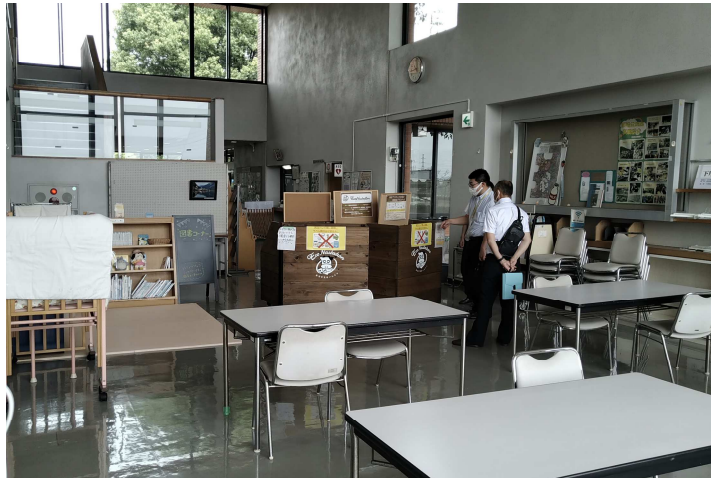
〔容器包装プラスチック〕



(4) モデル実証の特徴

先進事例(那須塩原市)

- ・ コンセプト: 回収拠点をオシャレなものへ
リサイクルを明るく前向きなイメージへ
- ・ 回収ボックス



モデル実証: 公民館のホールに設置



既存回収ボックス: 公民館の風除室に設置



オシャレで清潔感のある回収ボックス



(5) モデル実証により見えてきた課題

[回収量の問題]

- ・ 拠点回収の場合、回収量が少ない傾向にある。
- ・ コスト削減や脱炭素効果のためにもある程度の回収量が必要
⇒ 近隣市町との広域連携等も必要か…

[リサイクル事業者の不足]

- ・ 現在のリサイクル事業者は基本的に製品プラのみを対象
⇒ 新たなリサイクル事業者の確保を模索

(6) 今後の計画等

[令和5年度]

- ・ 回収拠点を5か所に増やす(対象:公民館区の住民を想定)
⇒ 地域による排出量や排出物の特性等について分析

[令和6年度以降]

- ・ 実証分析の結果を踏まえて、更なる増設を検討
- ・ 回収エリアを市内全域に拡大する方向で分析を継続
⇒ 環境負荷の少ない、持続可能なリサイクルを目指す